

## 《令和8年度 研究会活動紹介》

研究会名	代表者氏名
仏教×科学関連研究会	山田 俊弘
研究会名 略称: 仏科相関	所 属: 大正大学総合仏教研究所研究員
活動紹介	
<p>【活動内容】第一に、従来の宗教と科学の関係についてなされてきた研究が、主としてキリスト教との関係であることを考慮したうえで、そこにおける議論のパターンとその仏教とりわけ大乘仏教との関係への適用可能性を検討する。第二に、科学史・数学史研究における新しい動向、とりわけ科学(進化論)の大衆化ならびに科学の客観性認識をめぐる歴史的変遷の二つの動向と、日本の近代仏教史研究のあいだに新しい領域を開拓することを目的とする。そこでは研究主体のもつ仏教思想の様相が問題になることから、社会の世俗化や情報化の問題も含め、日本独自の貢献が見通せることになる。第三に、以上をふまえて実際の教化・教育活動への具体的な情報提供や提言も行なう。現在8名の会員(共同研究者)がおり、月に一度の月例会を中心に研究会活動を行っている。</p>	
<p>【活動実績】これまでに17回の研究会を行なっている。内容は、基本書・話題書の輪読会と共同研究者の研究発表会からなる。輪読会ではトンプソン『仏教は科学なのか』(2024)を取りあげた。研究発表としては、インド論理学史、マインドフルネスと現代哲学批判(神経科学論)、19世紀護法論における仏教と科学、五何法と十如是による現代科学解析などが行なわれた。出版物は、高橋秀裕「お大師さまの縁起思想と現代科学」(川崎大師教学研究、2026年1月)、山田俊弘「南方熊楠の科学教育論」(智山学報、印刷中)など。なお、共同研究者の丹波博紀が2025年6月に滝沢克己賞を受賞した。</p>	
<p>【令和8年度活動計画】助走期間の2年目となるため、個人研究の深化とともに、それらを研究会の共同研究としてどのようにまとめていくか方向性を定めていきたい。具体的には学会におけるセッションの開催や論集出版の企画(テーマの突き合わせ)検討を行なうなかで議論を進めることを考える。なお、共同研究者の専門分野(科学史・数学史、生命科学、日本思想史、建設・環境設計、アメリカ学、インド論理学)の特性を極力活かすかたちで行なうことが重要なポイントとなる。</p>	